
ジャパニーズ・テスト・ロンリィ

椎名さかな

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ジャパニーズ・テイスト・ロンリイ

【Nコード】

N7025C

【作者名】

椎名さかな

【あらすじ】

お前さ、毎回毎回メシ添付してくんの何？帰りたくなるし。

お前さ、毎回毎回メシ添付してくんの何？ 帰りたくなるし。

スーパーのレジ打ちのパートを終えて暗いアパートに帰ってきてみると、昼に送ったメールの返事も返ってきていた。

ずっとマナーモードにしていたから、時刻を確認する為に携帯を開いてみるまで全く気がつかなかった。十八時。梅雨特有のじつとりと生温い風が伸びかけの髪をさらい背中を撫でていく。

それならとつと帰ってこいよ、と悪態について私は携帯をたたんだ。

駐輪所の片隅で、欠けた植木鉢がただぼんやりと遠くを見つめたまま転がっていた。

鉄筋の階段を一段一段踏みしめるようにのぼりながら、私は先程のメールへの答えと晩飯の献立を同時に考える。なんと答えればいいのかわからなかったのと、今日が特売セールだったからだろう。無性に空腹を感じていた。アパートをぐるりと取り囲むコンクリートの小さな塀の上で三毛猫がくあ、と大きなあくびをした。

私が祐斗へのメールにしょっちゅう食卓の画像を添付しだしたのは、ここ数週間の事だ。

年齢は私より二つ上だが二年浪人した彼は、大学に隣接した病院で小児科医のペーパーをやっている。浪人、というと妙に聞こえが悪い。だが『当時最高の施設及び教育が受けられるレベルの高い大学に入る為、二年をその糧へと費やしたのです』と長々しくいうのもなんだか過剰な気がしないでもないし、実際予備校生だったのに変わりがない。考えても頭が痛くなるだけで疲れるだけだ。

その大病院に小児科の世界的権威とも呼べる、三流大文学部卒の私にはスツカリサツパリな人物が、来訪したのがちょうど今から一ヶ月前。そして、その人の指導にあやかれるとして祐斗がアメリカ

力に渡つたのが三週間前になる。更に付け加えるなら祐斗が日本を
発つた日は私たちが結婚して九ヶ月三週間目に当たり、その一週間
後から私の左上の奥歯が虫歯で痛む様になった。

最初は確か、祐斗がいない間に料理のレパートリーを増やそうと
して実験的に作っていたものを話題として送ってみたのがきっかけ
だった気がする。

こげ茶が少しきつめの肉じゃが。レトルトパックを使わない酢豚。
祐斗が好きなパスタをいろいろ。味はどれも特別おいしいとはいえ
なかった。だからこそ笑い話になった。「帰ってくる頃にはもつと
上達してるよ」「楽しみにしてる」と、文章上で笑いあう。時差の
せいでなかなか時間の都合が合わない私たちの、ささやかな楽しみ
だった。

それがいつ頃からか私の中で一方的に習慣化していった。気付け
ば三、四通に一通の割合で料理の画像が添付されている。祐斗が呆
れるのも、わかる。

しかしなかなかやめられないのだ。料理をダイニングテーブルに
並べると無意識に携帯を取り出して撮影している。メールの返事を
打つ度に、まだ送っていない写真を添付している。ああ、癖になっ
てると楽天的に構えて添付を解除して送信した後に残る、形容し難
い胸のもやもや。灰色の空気と一緒に喉をせり上がってくる不安や
焦燥。

それから逃れる為に私は写真を撮り続ける。添付し続ける。一方
的なエゴの押し付けと頭では理解しているつもりなのに、どうして
も敵わない。まるで麻薬か何かだ。

昼は人参ときので作ったかき揚げそばを送った。大したものが入
れてないがなかなか美味しかった。さあ、何を作れば良いだろう。

色々と考えているうちに、足は『十川 祐斗・紗枝子』と書かれ
た表札の前で止まる。学生時代にデートで行った水族館で祐斗が買
ってくれた白いあざらしの財布を取り出す。立派に使い込んで茶け
てしまった私お気に入りのキーケースだ。

鍵を取り出してドアを開けようとする。しかし、なかなか開かない。ガチャツ、ガチャと金属が擦れる耳障りな音がする。部屋は、間違えてなんか、いない。表札には『十川』の文字。そうだ、レジの打ちすぎで左手が鈍っているに違いない。右手に持ち替えて再度鍵を握る。ガチャツ、ガチャツ、ガチャツ。穴の中で何かに引っかかっているんだろうか。或いは年季の入ったアパートだ、渋くなつていてもおかしくはない。

管理人さんを、呼ばなきゃダメかな……。ガチャリ。

諦めかけた時にやっと、涼しい音がして鍵が回った。一気に緊張が解ける。

太陽の光はもうほとんどない。開け放たれたカーテンからガラス窓越しに届く紫色の残り日が弱々しい。隙間風が窓の端へと追いやられたカーテンの裾をいじけた様に揺らしていた。

リビングに入り、カーテンを閉める。蛍光灯から伸びる紐を二回ほど引つ張つてやると室内にはぱつと真つ白い光が満ちた。額を照らす明かりはしっかりと片付けてあるそこを隅々まで照らし、一人の寒さが身に染みだ。

私がどれだけ片付けても、ものの数時間で祐斗は何かを出しっぱなしにして、叱られては「片付けは苦手なんだって」と悪びれもせず言い訳を並べて。

うさぎは寂しくて死ぬというけれど、もしかしたら人間だってそうかもよ。

ははっ、と空笑いを零して私はショルダーバッグをソファに放る。台所へ行き同様に蛍光灯を灯して冷蔵庫を開けた。減りが少なくなつた麦茶の瓶が居心地悪そうに立っている。野菜室をあけて、サラダを作るうと思った。レタス、しめじ、もやし、キュウリ、トマト……。ああ、トマトは今朝切り分けたのが残っていたはずだ。野菜室を閉め先程の扉を開く。切り分けてラップしてあるトマトと、麦茶をどけて奥からノンオイル和風ドレッシングも出した。

サラダだけじゃ、腹持ちも栄養も悪い気がする……。チルド部屋

からブタバラ肉のスライスも出す。冷凍庫に、まとめ湯でして小分けにしたスパゲティがある。和風のサラダスパにしよう。

カッチカチに凍った一食分のスパゲティを電子レンジに入れて三分、同時にガスコンロに水で満たした鍋をかける。

レタスはちぎって、ブタバラ肉とキュウリはそれぞれ半切れを適当な大きさに切って、そうこうしているうちにレンジが声を上げる。じゃばじゃばとしぶきを上げてスパゲティを流水で冷やしているうちに、今度は鍋が沸騰してゴポゴポ唸り始める。豚バラ、しめじ、もやしテンポ良く投入して菜箸で軽く掻き混ぜて火が通ったらすぐにザルへ、さつきと同じ要領で冷やす。水しぶきが飛びかう。

全てをボウルに入れて和風ドレッシングで和え、塩コショウを振り、食器棚からカレー皿ではなく涼しげなガラスの器を取り出す。混ぜ合わせただけのそれが少しでも見栄えが良くなるようにトマトとキュウリの位置をずらしてみる。ダイニングテーブルに運び、コップに麦茶を注いで添えた。

ポケットから携帯を取り出す。カメラを起動、設定変更、明るさ調節+1。スポット撮影モード。

液晶の真ん中にぼつん、と点線の四角が現れる。真上九十度からその中にサラダスパが入る様に背伸びし身体をねじる。シャッターを切るとカシャツと小気味良い音が辺りに響くと同時に画面がピンボケに歪みそれからゆっくりと画面が切り替わって、一番鮮明な映像を残す。トマトの粒まではつきり見える。ようやく、出来上がりだ。液晶画面の時刻を見ると、七時にもなっていないかった。

私は携帯のフリップを閉じてポケットに押し込む。席に着き、フオークを握る。

食べ終わったら、祐斗にメールを返そう。食べながら、メールの答えを考えよう。

お前さ、毎回毎回メシ添付してくんの何？ 帰りたくなるし。もやしとレタスを噛み締めながら、先程のメールを頭の中で反芻する。

なんでだろうね。寂しいからかな。

テーブルの上で朝食味付け海苔が困った様に、かといって何も出
来ずに場所を占めていた。私は、味付け海苔を食べない。だから誰
かさんがいなくなると、この海苔は途方に暮れてしまう。

祐斗は五週間の研修を終えて、来月の頭に帰国する予定だ。丁度
結婚十一ヶ月目に帰ってきて、一緒に一周年を祝う。

なんてもどかしいんだろう。帰りたくなるなら帰ってきてよ。

そしたら毎日朝昼夜、貴方の為にご飯を作るよ。味付き海苔がな
くなったらまたスーパーで安く買ってくるよ。焦げた肉じゃがでも
レトルトパックじゃない酢豚でも、望むなら何だって作るよ。

ホームシックにでもなってしまう。結婚十ヶ月目を私と共に祝お
うじゃないか。

味付け海苔を見つめながら一口飲んだ麦茶が、ツンツと左上の奥
歯に染みて、私は両目を細めた。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7025c/>

ジャパニーズ・ティスト・ロンリィ

2008年11月7日08時50分発行